C11b　愛知教育大学天文台一般公開１　大学における一般公開の意義

○安藤享平 (郡山市ふれあい科学館)・後藤純也 (愛知教育大)・水谷有宏 (国立天文台)・吉見恵里子 (愛知教育大)・佐藤千晶 (愛知教育大)・水野洋介 (京大理)・沢武文 (愛知教育大)

愛知教育大学の自然科学棟屋上には，40cm 反射望遠鏡を備えた天文台が設置されている．天文学研究室ではこれまでも，この天文台を授業や卒業研究などで使用してきたほか，学内の教職員・学生を対象とした観望会を実施してきた．近年では研究機関などで熱心に公開事業・普及活動が行われるようになってきているが，このような状況の中で，当大学でも地域に向けて天文学の情報発信を積極的に行うことができないかと考えた結果が,「愛知教育大学天文台一般公開」の実施である．今回は，大学における公開事業の方向性とその意義を報告する．

実施にあたっては，大学が天文台を公開するという点を考え，公開に向けた目標と，大学・研究室・実際に多くの労力を払うことになる研究室の学生に対するメリットを洗い出した．科学館や公民館などで行われている普及活動と，研究機関でもある大学が実施する普及活動との違いを鮮明にすること，一般市民にとって遠い存在である大学・天文学者（とその卵）の顔が見える事業とすることを目標とした．学生に対しても，一般市民に接する機会を積極的に設けることで，プレゼンテーション技術の向上や，教育への意識・技量の向上を図ることができる機会であることを強調した．

準備期間を経て，2000 年 12 月に第１回目の一般公開を開始し，以後，ほぼ隔月の間隔で実施している．実際に実施していく中で，参加者の意識や目的を意識し軌道修正をした個所がある．これらを意識した上で，我々が意図する目標に少しでも近づくよう，現在も試行錯誤を続けている．